

みんなで読もう！「いわ100きっず」
～地域・教師・子どもの取組～

北上市立口内小学校

目的
趣旨

「いわ100きっず」を学校・地域ぐるみで活用することで、子どもたち一人一人の読みの世界を広げ、考える力や表現する力を高める。

対象

全校児童



学校・児童・生徒の様子

口内小学校では図書室が廊下に面してオープンスペースになっており、全校57名のどの子どもも気軽に図書室に足を運べる環境にあります。また、その図書室には「いわ100きっず」コーナーも特設していることで、いつでも「いわ100きっず」の本を手にとって読むことができるようになっています。

学校図書ボランティアには、地域の幅広い年代の方が登録しています。また、地区交流センターが学校とボランティアの連絡調整を行うなど、地域の方々が学校の読書活動を支えています。

校内でも地域の活動に負けずに、教師や図書委員会で取り組み、子ども達の本への興味が高まっています。



【図書室の「いわ100きっず」コーナー】

取組概要

- 学校図書ボランティアによる読み聞かせ
「いわ100きっず」の中から選んだ本も読み聞かせに活用しています。
- 教師の働きかけ
学年で読ませたい本(必読図書)の中に「いわ100きっず」の本を組み入れて、11月までには読むように支援しています。読んだ本については、カードにシールを貼らせて達成感を持たせるようにしています。
- 学年による取組
2学年では、1学年のときに作成した「1・2年生のいわ100きっず」カードを活用し、2年間で読破するように取組んでいます。
- 委員会活動での取組
後期の図書委員会活動において、「いわ100きっず」の本の紹介や読み聞かせを行います。



【読み聞かせ】



【いわ100きっずカード】



【必読図書カード】

● 学校から（取組の成果と今後について）

「いわ100きっず」を介したさまざまな取組により、「いわ100きっず」が教師や子ども、図書ボランティアの方々にとって身近な存在になりました。そして、子どもが本に触れる機会が増えたことにより読書量も増えました。今後は、学年間の取組の格差をなくすために、教師間で共通理解を推し進めると、計画的に「いわ100きっず」掲載図書の購入を目指します。